

指導案・提案資料

① 指導案

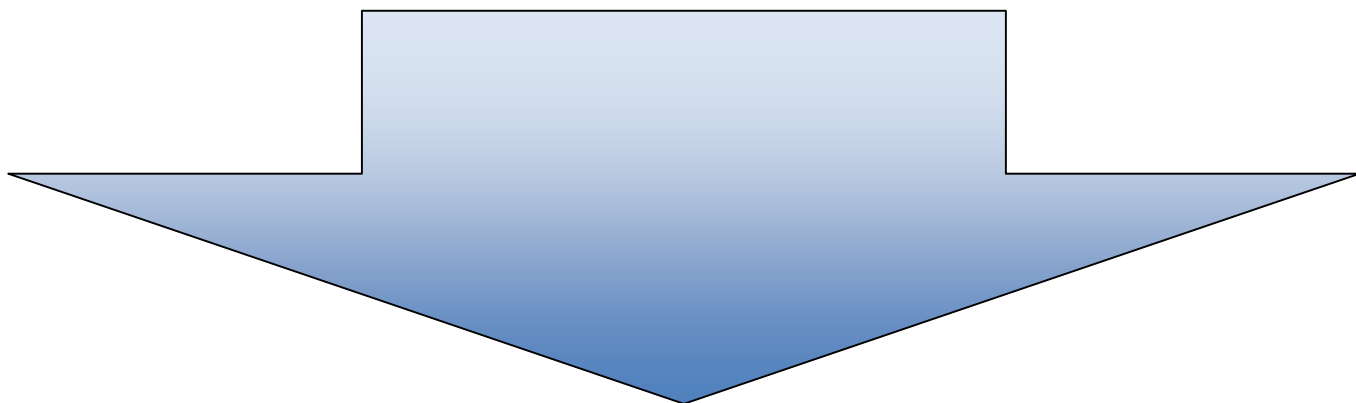
② 提案資料

※ 第100回教育研究発表会の紀要に掲載している指導案と、本実践に関わる提案資料です。

※ 提案資料は、指導案の補助的なものとして研究会当日に配布したものです。本提案資料は「教材の宝箱」版として、一部修正を加えています。

※ 本実践に関するご意見・ご質問につきましては、本校研究部までお願いします。

メールアドレス→sakashokenkyu@ed.kagawa-u.ac.jp



第3学年東組 国語科学習指導案

学習指導者 片岡 亜貴子

1 単元 「お気に入りの登場人物を音読で伝えよう — 『モチモチの木』 —」

2 単元について

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

複数の叙述をつないで場面の様子や人物の気持ちを想像し、その人物像を捉える力

お気に入りの登場人物についてその人物らしさが伝わるように音読することに興味をもち、お気に入りの人物を好きな理由について叙述を基に話し合う中で、場面の様子や人物の気持ちをより具体的に想像し、人物像をより深く捉えていく。さらに、他の文章でも想像を広げながら人物像を捉えて、音読で伝えようとしている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本単元では、複数の斎藤隆介作品の中からお気に入りの登場人物を選んで、その人物らしさが表れている場面を音読で紹介するという言語活動を設定し、学習指導要領「C読むこと」の指導事項ウとアを指導する。本単元において、指導事項ウの「場面の移り変わりに注意しながら」読むとは、お気に入りの登場人物について好きな理由を考える際に、例えば共通教材『モチモチの木』を読んで、1場面の「一人じゃしょうべんもできない」という根拠となる叙述を3場面の「じさまのたばこくさいむねんに鼻をおしつけて」とつないで、夜のモチモチの木を恐れている豆太の様子を想像し、「怖がりで甘えん坊」等といった豆太の人物像を捉えていくことである。好きな理由の根拠として挙げた叙述はその人物らしさが表れた部分でもあるため、その叙述を基に想像した場面の様子や人物の気持ちを深く捉えることで、読み手の体験や経験、思い等が読みに反映されてくるだろう。こうして指導事項アの「内容の中心」つまり「その人物らしさが表れているところ」がよく分かるように、個性豊かな表現で音読することができる。

お気に入りの登場人物を見つけて、その人物らしさを伝えたいと思った子どもたちは、音読を通して人物らしさを伝えることに興味をもつ。そして、叙述から捉えた人物像とその人物を好きな理由について話し合う中で、例えば、『モチモチの木』の豆太について、「僕はこの場面の『ほんとは勇気がある豆太』が好きだよ。理由は、前の場面では夜が怖くて臆病者の豆太だったけど、ここではじさまのために夜でも医者呼びに行き、そこがすごいなと思ったからだよ」「夜は今みたいに明かりはなくて、外はきっと真っ暗だったんだろうね」「そうだね。『…なきなきふもとの医者様へ走った』のところで、豆太はきっと『じさま、僕を一人にしないで』と思っていたんじゃないかな」「なるほど。僕のお気に入りは『大好きな人のために勇気を出せる豆太』とした方がよさそうだな」等と、場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像しながら、人物像をより深く捉えていくのである。さらに、自分の選んだ物語についても、共通教材での学びを生かして叙述を基に想像を膨らませながら人物像を捉えて音読する。そのようにして、具体的に想像すると自分の音読が変わってくることを実感し、声で表現することの楽しさに気付いた子どもたちは、同じ物語の他の場面や別の物語でも叙述をつなぎながら想像を広げ、その人物らしさが伝わるように音読しようとしていくのである。

(2) 自信度を高め、新たな問題を共有する場を位置づけた単元構成について

質問紙調査の結果によると、本学級では34名中29名の子どもが、場面の様子が伝わるように音読することが得意かという質問に肯定的に答えており、音読に対する自信度は高いと言える。しかし、日頃の見取りから、文章をすらすら読める子どもは比較的多いが、声の大きさ、速さ等を工夫して音読できている子どもは、それほど多くはない。そこで本単元では、単元の導入時に自分たちの音読を録音したものと範読とを聞き比べる時間を設ける。自分たちの音読を客観的に聞くと、子どもたちの自信度は一時

的に下がるだろう。しかし、人物像の捉え方や人物像を表す言葉について学習し、観点を言いながら具体的に想像したことを話し合っ
て人物像を深く捉えられるようにすることで、子どもたちはその場面をより身近に感じることができるようになる。そして、それを基に音読したものを、声の大きさ、速さ等の音読の工夫の観点を
用いて他者評価をしてもらうことで、客観的に自分の音読の工夫のよさに気付いていく。このような体験を繰り返しながら、子どもたちは音読
に対して再び自信を高めていくと考える。こうして、表出されるであろう「同じ物語の他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物らしさが伝
わるように音読したい」等の新たな問題を全体で共有し、解決の場を位置づけることで、学習に主体的に取り組むことができるようにしたい。

(3) 単元計画と学習意欲への働きかけ (総時数 11時間)

次	主な子どもの意識および学習の流れ	学習意欲への働きかけ
第 一 次	<p style="text-align: center;">①② 音読発表会に向けて、学習の計画を立てよう</p> <p>言語活動について確認した後、物語の範読と自分たちの音読とを聞き比べる。その際、音読が好きな子が多いという学級の実態から、子どもたちは「もっと上手く音読ができるようになりたい」という思いをもつだろう。その後、場面の様子が具体的に なることで読み方が違ってくることに気づき、お気に入りの人物らしさを音読で伝えるためには、想像を膨らませることが大切だ という意識になる。次に、既習である声の大きさ、速さ等の音読の工夫の観点を振り返り、友達の音読を聞く際には、これらの観点を意識しながら聞いて、よかった点を伝え合うとよいことを共通理解する。学習に対して不安を感じている子どもの思いから、まずは共通教材『モチモチの木』で一緒に考えた後、自分の選んだ物語に挑戦するという学習の計画を立てる。</p>	<p>①② 関【聞き比べ】 自分たちの音読と範読とを聞き比べたり、同じ文面で声の大きさや速さ等の異なる音読を聞き比べたりすることで、音読の工夫の効果を実感できるようにする。</p> <p>①～⑩ 自【頭のテレビ】 場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像することが苦手な子どものために、「目、耳、鼻、口、手、心」の観点と、それらを用いて想像することの具体を示しておく。</p>
第 二 次	<p style="text-align: center;">③～⑤ 『モチモチ木』を読んで、お気に入りの場面を見つけよう</p> <p>まず、『モチモチの木』を読んで捉えた豆太の人物像を交流し、人物像の捉え方や人物像を表す語彙について学んだ後、お気に入りの豆太について好きな理由を交流する。その際には、複数の叙述をつなぎながら話し合うことで、子どもたちは豆太の様子や気持ちについてより具体的に想像を広げ、その場面を身近に感じながら音読する。そして、互いの音読を聞き合い、音読の工夫の観点を 用いてよかった点を伝え合う。1回目はみんなで同じ場面を扱い、2回目は1回目を基に、お気に入りの場面ごとにグループで考えていく。</p>	<p>③～⑩ 自 【音読の工夫とその効果】 声の大きさや速さ等の観点ごとに、期待できる効果の違いを掲示しておくことで、友達の音読を聞いた際の他者評価に生かせるようにする。</p>
二 次	<p style="text-align: center;">⑥⑦ お気に入りの登場人物らしさが表れるように音読しよう</p> <p style="text-align: right;">本時 (7/11)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>共通教材での学びを生かし、自分が選んだ物語でもお気に入りの登場人物について想像を広げて音読し、互いの音読のよかった点について伝え合う。こうしてお気に入りの人物らしさを表す音読への自信を高めていった子どもたちは、想像したことを声で表現する楽しさを感じ「同じ物語の他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物らしさが伝わるように音読したい」等と新たな問題を表出するだろう。それを解決する場を、次時に位置づける。</p> </div>	<p style="text-align: center;">----- 振り返り -----</p> <p>①～⑩ 【学びの宝箱】 授業の最後には、「自分の頑張り」「友達との関わり」についての自己評価(◎○△)と共に、感想や今後してみたいこと等をワークシートに記述させる。感想の中の学び方や協働のよさについては、学びの宝箱に入れて掲示することで、本単元以外でも活用できるようにする。</p>
第 三 次	<p style="text-align: center;">⑧⑨ 他の場面や別の物語で、お気に入りの人物を伝えよう</p> <p style="text-align: center;">⑩⑪ 音読発表会をしよう</p>	

3 本時の学習指導

(1) 目標

叙述をつないで場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像し、お気に入りの登場人物の人物像についてより深く捉え、それらを基にお気に入りの登場人物らしさが伝わるように音読している。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識																
<p>1 前時を振り返り、学習課題を設定する。</p>	<p>この前の時間は、物語を読んで、お気に入りの登場人物がどんな人物なのかを考えて、付箋に書いたよ。</p> <p>友達と話し合ったことを生かして、お気に入りの人物らしさが表れるように音読したり、友達の音読を聞いたりしたいな。</p>																
<p>お気に入りの登場人物らしさが表れるように音読しよう</p>																	
<p>2 同じ物語を選んだ友達と、お気に入りの登場人物について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">自【頭のテレビ】</p> <p>3 話し合ったことを基に、想像したことを加筆したり、人物像を修正したりする。</p> <p>4 お気に入りの人物らしさが伝わるように音読し、互いに聞き合っ、よかった点を伝え合う。</p> <p style="text-align: center;">自【音読の工夫とその効果】</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p> <p style="text-align: center;">振【学びの宝箱】</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【花さき山】 私はこの場面の「優しいあや」が好きだよ。「おらはいらねえから」と、妹のために自分は我慢しているところに、あやの優しさを感じたからだよ。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>【ソメコとオニ】 僕は、この場面の「無邪気なソメコ」が好きだな。鬼の姿を見ても、必死でかくれんぼに誘うところがかわいいと思ったからだよ。</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>妹の着物を見て、あやも心の中では「本当は私もあんな着物がほしかったな」と思っていると思うよ。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>最後の場面で、「ずっと優しいあや」が好きだよ。花さき山のことを思い出して、笑顔になっていると思うよ。</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>私が好きなのは、やっぱり「優しいあや」だよ。あやは、家族みんなを大切にしていたよ。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>前の場面は「毎日退屈していた」から、ソメコは寂しかったんだね。だから、鬼と一緒に遊んでくれた時は、嬉しくてたまらなかったんじゃないかな。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding: 5px;"> <p>お気に入りの場面の人物について、より詳しく分かったよ。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>想像した場面の様子や人物の気持ちをしっかり感じながら、お気に入りの人物らしさが表れるように音読するよ。</p> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>「いらねえから」を小さな声でゆっくり読んでいたから、家族のことを気遣って我慢しているあやの優しさが表れていたよ。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>会話の部分を明るい声で読んでいたから、ソメコにとって鬼との時間がどんなに楽しかったかが伝わってきたよ。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>想像したことを基にして、その場にいるような気持ちで文章を読んだから、自然と音読の工夫ができていたんだね。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物らしさを伝えたいな。</p> </td> </tr> </table>	<p>【花さき山】 私はこの場面の「優しいあや」が好きだよ。「おらはいらねえから」と、妹のために自分は我慢しているところに、あやの優しさを感じたからだよ。</p>	<p>【ソメコとオニ】 僕は、この場面の「無邪気なソメコ」が好きだな。鬼の姿を見ても、必死でかくれんぼに誘うところがかわいいと思ったからだよ。</p>	<p>妹の着物を見て、あやも心の中では「本当は私もあんな着物がほしかったな」と思っていると思うよ。</p>	<p>最後の場面で、「ずっと優しいあや」が好きだよ。花さき山のことを思い出して、笑顔になっていると思うよ。</p>	<p>私が好きなのは、やっぱり「優しいあや」だよ。あやは、家族みんなを大切にしていたよ。</p>	<p>前の場面は「毎日退屈していた」から、ソメコは寂しかったんだね。だから、鬼と一緒に遊んでくれた時は、嬉しくてたまらなかったんじゃないかな。</p>	<p>お気に入りの場面の人物について、より詳しく分かったよ。</p>		<p>想像した場面の様子や人物の気持ちをしっかり感じながら、お気に入りの人物らしさが表れるように音読するよ。</p>		<p>「いらねえから」を小さな声でゆっくり読んでいたから、家族のことを気遣って我慢しているあやの優しさが表れていたよ。</p>	<p>会話の部分を明るい声で読んでいたから、ソメコにとって鬼との時間がどんなに楽しかったかが伝わってきたよ。</p>	<p>想像したことを基にして、その場にいるような気持ちで文章を読んだから、自然と音読の工夫ができていたんだね。</p>		<p>他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物らしさを伝えたいな。</p>	
<p>【花さき山】 私はこの場面の「優しいあや」が好きだよ。「おらはいらねえから」と、妹のために自分は我慢しているところに、あやの優しさを感じたからだよ。</p>	<p>【ソメコとオニ】 僕は、この場面の「無邪気なソメコ」が好きだな。鬼の姿を見ても、必死でかくれんぼに誘うところがかわいいと思ったからだよ。</p>																
<p>妹の着物を見て、あやも心の中では「本当は私もあんな着物がほしかったな」と思っていると思うよ。</p>	<p>最後の場面で、「ずっと優しいあや」が好きだよ。花さき山のことを思い出して、笑顔になっていると思うよ。</p>																
<p>私が好きなのは、やっぱり「優しいあや」だよ。あやは、家族みんなを大切にしていたよ。</p>	<p>前の場面は「毎日退屈していた」から、ソメコは寂しかったんだね。だから、鬼と一緒に遊んでくれた時は、嬉しくてたまらなかったんじゃないかな。</p>																
<p>お気に入りの場面の人物について、より詳しく分かったよ。</p>																	
<p>想像した場面の様子や人物の気持ちをしっかり感じながら、お気に入りの人物らしさが表れるように音読するよ。</p>																	
<p>「いらねえから」を小さな声でゆっくり読んでいたから、家族のことを気遣って我慢しているあやの優しさが表れていたよ。</p>	<p>会話の部分を明るい声で読んでいたから、ソメコにとって鬼との時間がどんなに楽しかったかが伝わってきたよ。</p>																
<p>想像したことを基にして、その場にいるような気持ちで文章を読んだから、自然と音読の工夫ができていたんだね。</p>																	
<p>他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物らしさを伝えたいな。</p>																	

提案授業Ⅱ指導案
二日目

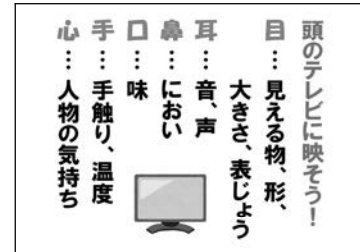
(3) 授業の詳細

前時までの子どもの意識 学習活動1

前時では、自分が選んだ斎藤隆介作品の中からお気に入りの登場人物の人物らしさが表れた場面を選んで、その人物像と、その場面の登場人物が好きな理由をまとめている。その際には、五感を使って想像したことを書き留め、その登場人物が好きな理由を考えている。共通教材『モチモチの木』での学びから、友達と交流することのよさを感じている子どもたちは、自分の選んだ物語でも友達と交流してより具体的に想像を広げ、音読に生かしたいという思いをもつだろう。そして、そこから本時の学習課題を設定する。

学習活動2

前時にまとめた自分の考えを振り返った後、お気に入りの場面の登場人物の人物像と好きな理由について、同じ物語を選んでいる友達と話し合う。好きな理由を述べる際には、その場面で想像したことを基に交流する。人物はどんな表情をしているか、何を着ているか、どんな音が聞こえるか、どんなにおいがするか、暑いのか、寒いのか、心



【頭のテレビ】

の中ではどんなことを考えているのか等、五感を使って想像したことを伝え合いながら、より具体的に想像していく。【頭のテレビ】そうすることで子どもたちは、実際にその場にいるような感覚で場面の様子や人物の気持ちを捉え、物語の世界に浸れるようになる。グループで交流した後、まだ解決していない疑問が残っている場合はそれを全体の課題として取り上げ、みんなで考える時間を設けたり、新しい発見や友達の考え方のよさについて全体で共有したりする。

学習活動3

友達と話し合っ、場面の様子や人物の気持ちについて想像が広がったり深まったりしたことをワークシートに加筆するとともに、お気に入りの場面の人物像についても再考する時間を設ける。そして、人物像を表す言葉を修正した子どもを取り上げて修正した理由を尋ね、より具体的に想像できたり、複数の叙述をつないで考えたりできたことを称賛し、協働のよさに気付かせる。

学習活動4

お気に入りの場面で登場人物らしさが表れた叙述は、好きな理由の根拠となった叙述と同じであることが予想されるので、学習活動3において、その叙述が表す場面の様子について具体的に想像が広がっていると考える。その場に自分自身がいるような感覚で場面の様子や人物の気持ちを感じながら音読の練習をした後、数人に音読させる。そして人物のどのような様子が伝わってきたか、音読の工夫の観点を表す言葉を用いながら聞き手に語らせることで【音読の工夫とその効果】、想像の広がりや深まりが人物らしさの伝わる音読につながっていることを確認し、同じ一文でもいろいろな表現のしかたがあることに気付かせる。

学習活動5

振り返りの場面では、まず個人でワークシートに「自分の頑張り」「友達との関わり」について◎○△を用いた自己評価と、感想や今後してみたいこと等を記述させる。その後、「学び方」や「協働のよさ」について記述している子どもを取り上げ、これまでの学習で溜めてきたものに書き加えることで、次時以降の授業や他教科での授業等に活用できるようにする。【学びの宝箱】また、今後やってみみたいことについても、「他の場面や別の物語でも、お気に入りの人物を考えたい」という思いを全体で取り上げて共有し、次時につなぐ。

(4) 総括的評価

お気に入りの場面の登場人物について、その人物像と好きな理由を話し合う中で、五感を使って場面の様子や人物の気持ちをより具体的に想像し、人物像についてより深く捉えて、お気に入りの登場人物の人物らしさが伝わるように音読している。 【方法：発言，ワークシート】

第 3 学年 国語科
お気に入りの登場人物を音読で伝えよう
— 『モチモチの木』 —



1 本単元で目指す子どもの姿

◆新学習指導要領との関連

【知識・技能】

オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。

【思考力・判断力・表現力等】

読むこと

イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。

文学的な文章における精査・解釈について

低学年…場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

中学年…登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。

高学年…人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

◆これまでの学習から…

これまでの学習で、子どもたちは「すいせんのラップ」（4月教材）、詩「紙ひこうき」「夕日がせなかをおしてくる」（9月教材）等で、音読について学んでいる。場面の様子や人物の気持ちを想像し、それを基に音読の工夫を考えてきたのだが、一部の子どもたちの音読がなかなか自然な読みにならないことに課題があった。その原因を考えてみたところ、想像したことを基に音読の工夫を考える過程で、子どもたちの意識が文章全体から離れて、読み方を工夫しようとする単語に目が向いてしまっているのではないかという思いに至った。例えば「夕日がせなかをおしてくる」の「でっかい声でよびかける」の部分で、でっかい声でよびかけたのはその後の「さよなら さよなら…」のところであるのに、A児は「でっかい」という単語の意味に目が向いていたため、その「でっかい」を大きく読んで、実際によびかけた部分は普通の声になってしまったのではないかと考えた。

そこで、本単元では、音読する側には「場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像すること」だけを意識付け、音読の工夫は聞く側からの評価の際に用いることにした。実際に日常での私たちの声の出し方は、その場の雰囲気や気持ちによって変化するものであるため、音読の授業においても、想像を広げて場面の様子や人物の気持ちが分かれば自然と読みが変わってくるはずである。その音読を聞き手が「声の大きさ、速さ、間」等の音読の工夫を用いて評価することによって、読み手側も音読の工夫のよさに気付き、読むことへの自信を高めていけるようにしたい。音読が好きな子どもが多いという学級の実態からも、子どもたちがそれぞれの思いでお気に入りの人物らしさを表現し、声で伝えることの楽しさを実感できる授業ができればと思う。

2 単元の流れ

◆ 1 時間目 ～ 音読発表会に向けて、学習の計画を立てよう ～

① 言語活動の確認

これまでに学習した物語教材を振り返ってどんな人物が好きだったかを自由に語らせた後、本単元ではお気に入りの登場人物を見つけてその人物らしさを音読で紹介することを確認した。

② 自分たちの音読と範読を聞き比べる

子どもたちが「サーカスのライオン」（2学期教材）を音読した音声と、範読のCDとを聞き比べる時間を設けた。範読のCDは、香川県音読カップでの入賞者の音読を用いた。音読カップのCDの表現豊かな音読を聞いて、子どもたちは自分たちの音読との違いを実感することができた。

③ 「人物らしさ」とは何かを捉える

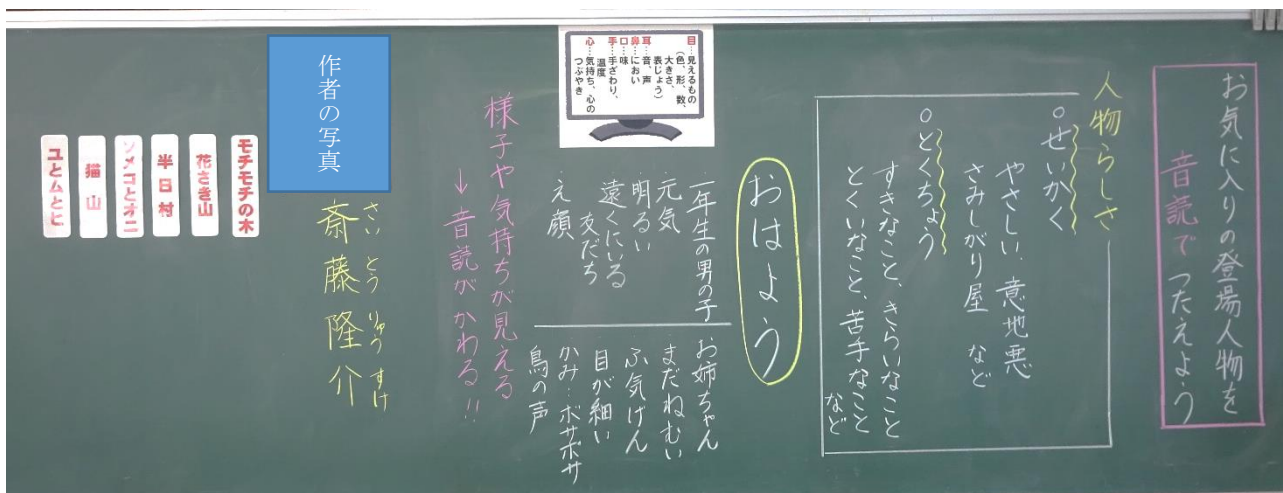
「人物らしさ」について、性格や特徴（好き嫌い、得意不得意等）を例に挙げ、その人物がどんな人なのかを表すものであることを共通理解した。性格については、10月教材「人物を考えて書こう」で物語を作る際に、さまざまな性格を表す言葉を学習している。

④ 異なる場面設定での「おはよう」を読み比べる

「おはよう」という言葉を2通りの場面設定で音読することで、子どもたちは、「場面の様子や人物の気持ちが具体的になることで自然と読み方が変わってくる」ことを実感することができた。想像を広げることについては、子どもたちは以前から「頭のテレビ」を用いて学習してきた。

⑤ 学習の計画を立てる

斎藤隆介作品を5冊紹介し、その中から自分のお気に入りの登場人物を見つけて音読で紹介することを共通理解した。その際に、「お気に入りの人物らしさ」を音読で伝えることに少し自信がないという子どもの思いから、まずは共通教材「モチモチの木」で学んだ後、自分で選んだ物語に挑戦するという学習の計画を立てた。



振り返り

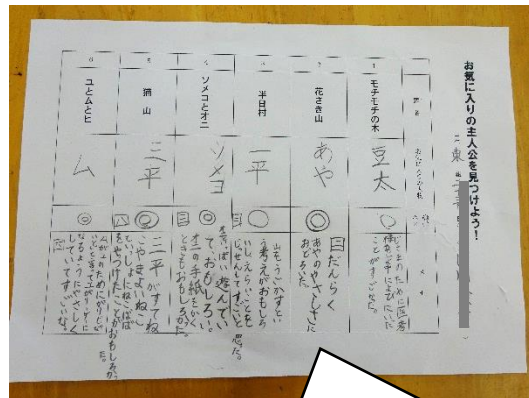
授業の最後には、「自分の頑張り」「友達との関わり」についての自己評価（◎○△）と共に、感想や今後してみたいこと等をカードに記述している。振り返りカードで子ども一人一人の実態を捉え、支援が必要な子どもを見つけたり、次時以降の学習内容を補足・修正したりすること等に生かしている。

～ 子どもたちの振り返り ～

- ・ CDの人みたいに、上手に音読できるように頑張りたい。
- ・ 性格や特ちょうが分かるように、上手な音読がしたい。
- ・ みんなにお気に入りの登場人物を音読で伝えられるか心配。
- ・ 早く物語を読みたい。音読できそう。

◇朝の活動 等 ～ 斎藤隆介作品を読もう ～

朝の活動の時間等を利用して、斎藤隆介作品を読んだ。子どもたちには物語の文章を印刷したものを配布した。子どもたちの自由な想像を大切にできなかったため、挿絵はあえて入れなかったのだが、たくさん文字を読むことに苦手意識のある子どもには、絵本を見せながら読み聞かせを行った。子どもたちは5冊の本を読み、その中からお気に入りの登場人物を見つけていった。

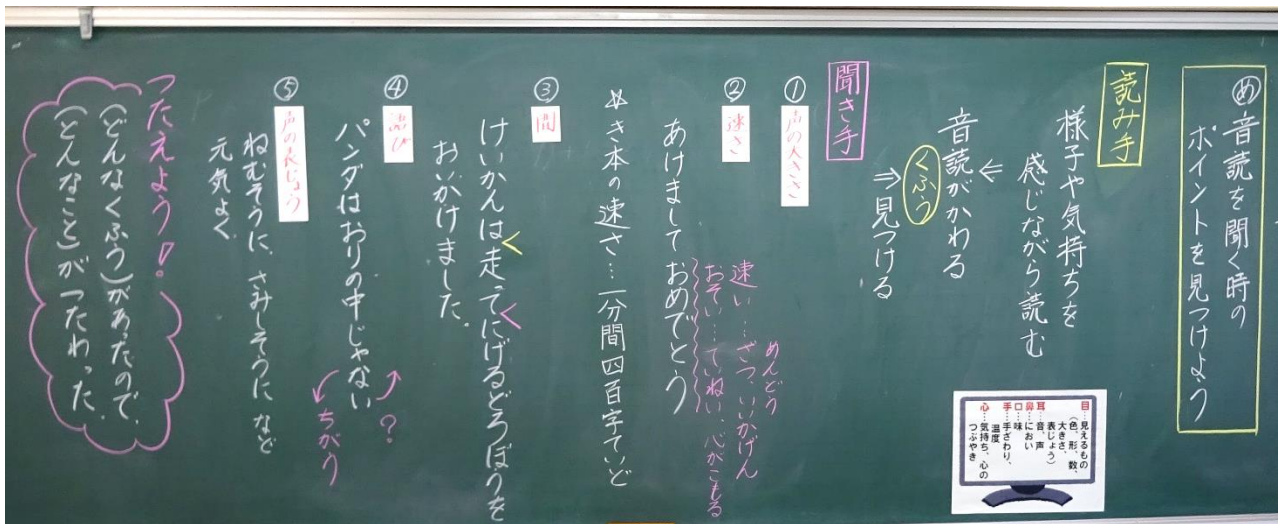


お気に入りの登場人物，お気に入りの登場人物の好きレベル
(◎○△)，メモをワークシートに残していった。

◆2時間目 ～ 音読を聞く時のポイントを見つけよう ～

前時は、物語を音読する「読み手」について学習した。2時間目は、読み手の音読に対して「聞き手」がどのように聞けばよいのかを考えていった。

これまでの学習で、子どもたちは音読の工夫として「声の大きさ」「速さ」「間」「声の表情」の4つの観点について学んでいたが、1時間目の範読を聞いた際に、語尾の工夫に気付いた子どもがいた。そこで本単元では、「語尾」を加えた5観点の工夫を用いて、友達の音読のよさを見つけることを共通理解した。1時間目に用いた範読CDや、同じ文章を4通りの速さで読んだり、同じ文章を間を取る位置を変えて読んだりしている教材CDを聞きながら、それぞれの観点についての理解を深めていった。



～ 子どもたちの振り返り ～

- ・ 5つのポイントを、友達の音読を聞いて見つけたい。
- ・ 友達が読む音読を早く聞きたい。
- ・ 聞く時のポイントを見つけて、友達の音読のよさを伝えたい。
- ・ 音読の工夫が分かったので、練習するときに使いたい。



今回の授業では、読み手が意識するのは「様子や気持ちを具体的に想像して、その場面を感じながら音読すること」、聞き手が意識するのは「5つのポイントを使って、友達の音読のよさを見つけること」であるが、必然的に、読み手側にも5つのポイントを使って音読する意識が生まれてきている。

◆ 3時間目 ～ 「モチモチの木」を読んで、豆太らしさを見つけよう ～

共通教材「モチモチの木」の場面一から見つけた豆太の性格や特徴等を出し合い、好きな登場人物らしさの見つけ方を学習した。

- ① 場面一を黙読し、見つけた豆太らしさを黄緑色の付箋に書く
- ② 見つけた豆太らしさを、グループで共有する

グループ対話では、子どもたちと一緒に作った「話し合いのやくそく」を意識づけている。人前で話すことに苦手意識をもっている子どもが安心して発言したり、グループ内での疑問を出し合って全体で共通の課題にしたりできるように、話し合いの雰囲気づくりを大切にしている。

話し合いのやくそく

- 短くスパッとみんなが発言
- 同じ意見はまとめよう
- 反応をしっかりと返そう
- 意見のスレや「?」「!」を大切にしよう

【話し合いの約束】



【グループでの話し合い】

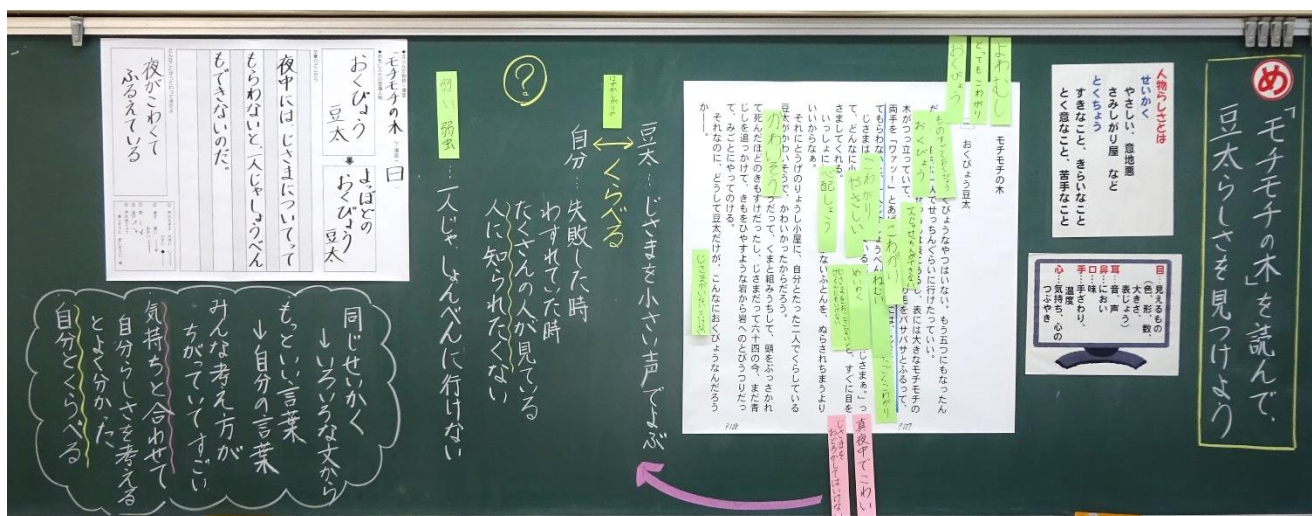
私は、同じところから、(こんな)豆太を見つけたよ。

僕は、(ここ)から(こんな)豆太を見つけたよ!

- ③ 短冊に書いたものを板書の教材文に貼り、全体で交流する

全体交流では、グループの友達と話し合った中で、「？」(疑問)と「！」(発見・驚き)を中心に交流した。本時では「はずかしがりや」という短冊に疑問をもった子どもの発言を基に、豆太の人物らしさを考えていった。その際に、自分と比べて考えることのよさにも気付くことができた。

活動を通して、子どもたちは、同じ一文でも違う人物らしさを捉えていたり異なる文から同じ人物らしさを捉えたりしていることに気付いた。また、「おくびょう」「弱虫」「こわがり」等はよく似た意味だが、自分の思いにぴったりの言葉を見つけていこうという意識をもつことができた。また、「人物らしさを考える時には、気持ちと合わせて考えるとよく分かった」という子どもの発言から、想像しながら読むことは、音読する場面を具体的に捉えるだけでなく、人物らしさを考える際にも大切であるということにも気付くことができた。



～ 子どもたちの振り返り ～

- ・豆太らしさをたくさん見つけることができた。
- ・「？」だったところが解決できてよかった。
- ・自分と豆太のどこが違うかを考えたらいいと分かった。
- ・豆太の特徴を考えて、次は自分でできそうな自信がついてきた。
- ・友達と一緒に考えると、新しい豆太が見つかった。

◆ 4時間目 ～ 頭のテレビを使って、豆太らしさを音読で伝えよう ～

前時の振り返りをつなぎながら、自分が捉えた豆太らしさの根拠となる叙述について想像を広げ、お気に入りの人物をより深く捉えていった。

① 場面一について想像を広げながら黙読し、自分の捉えた豆太について、頭のテレビに映ったことを付箋に書く

付箋の色は、想像の観点ごとに3色に色分けした。

(目…黄色, 耳鼻口手…青, 心…ピンク)

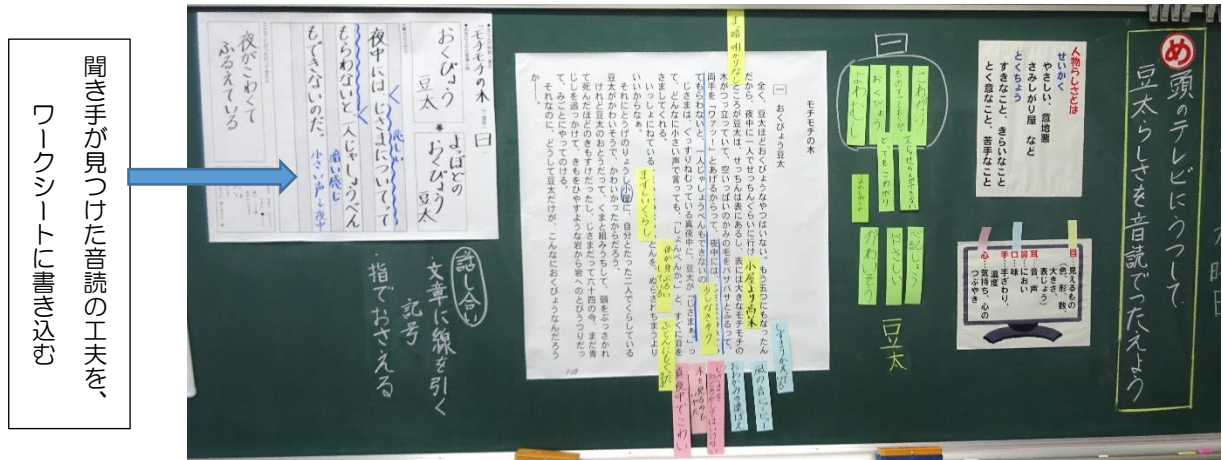
② 頭のテレビに映った様子や気持ちを、グループで交流する

③ 「？」や「！」について全体で交流しながら、場面一の豆太をより具体的に捉えていく



④ 場面の様子や人物の気持ちを捉えながら音読し、互いに評価し合う

3, 4人のグループで、一人が音読し、他の子は工夫を見付けてワークシートに書きこむ。その工夫によって、どんな豆太が伝わってきたのかを、読み手に伝える。



～ 子どもたちの振り返り ～

- ・豆太の気持ちと豆太らしさが想像できて、他の人物の気持ちも想像できそう。
- ・友達の音読を頭のテレビに映しながら聞いたら、工夫が見つかった。
- ・同じ文でも読み方が違っていて、おもしろかった。
- ・友達のアドバイスを聞いて読み方を変えると、前よりよくなった。

◆ 5時間目 ～ お気に入りの豆太らしさを見つけて、音読で伝えよう ～

本単元は、「①自分のお気に入りの登場人物を見つける → ②その場面の様子や人物の気持ちについて、想像を広げる → ③その場面の様子や人物の気持ちを身近に感じながら音読し、互いに聞き合う」という活動を繰り返し行いながら、子どもたちが徐々に想像することや音読することに対する自信を高めていくことをねらっている。その活動の2回目にあたる本時では、「モチモチの木」の全文から自分のお気に入りの豆太を見つけて、その場面の豆太が好きな理由について話し合い、音読につなげた。



①お気に入りの豆太らしさを探す



お気に入りの段落を表出

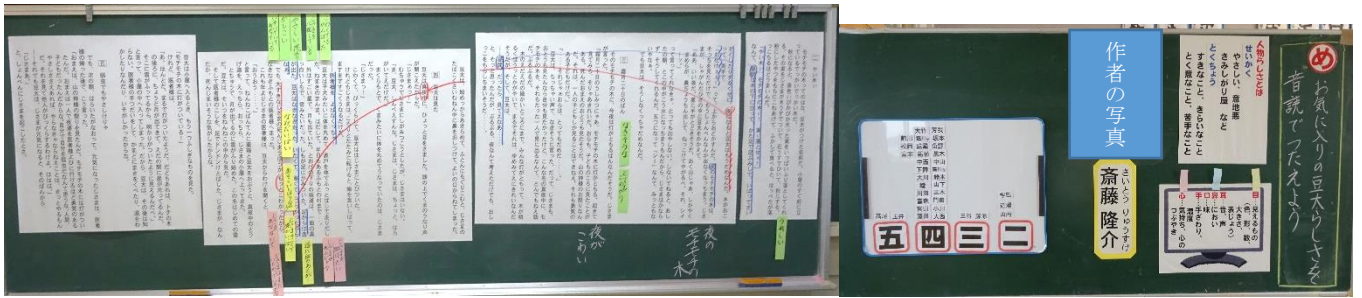


②想像を広げる



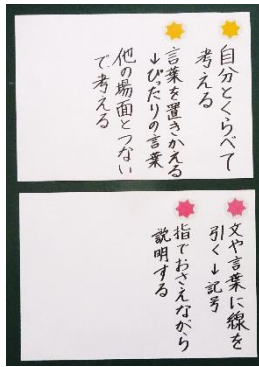
③音読を聞き合う

2回目になると、子どもたちは活動の見通しをもち、前回よりも作業のスピードは速くなった。まだ自分の考えをもちにくい子どもは数名いたが、同じ場面を選んだ子どもどうして話し合いのグループを編成していたことで、友達と話し合いながら、豆太のイメージを少しずつ膨らませることができた。



～ 子どもたちの振り返り ～

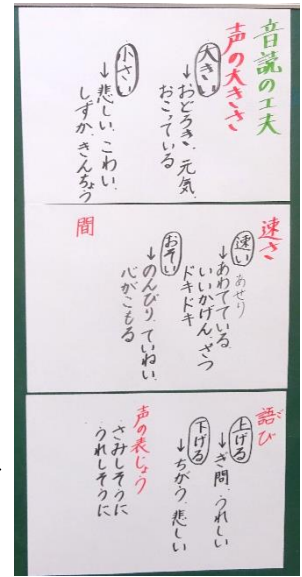
- ・豆太の様子を思い浮かべながら読むと、人物らしさが伝わった。
- ・いろいろな気持ちや様子が見つけれられたので、それを使って音読できたので嬉しかった。
- ・音読が少し上手になった気がする。
- ・友達に自分の音読の工夫を見つけてもらえて、嬉しかった。
- ・次は自分の物語で、今日の力を使いたい。
- ・もうちょっと文を長くして、もうちょっと工夫を見つけてほしい。



【学びの宝箱】

授業の中で子どもたちが見つけた「学び方」と「協働」のよさを、次時以降も使えるように掲示し、加筆していく。

友達の音読を聞いて評価する際の参考になるように、音読の工夫とその効果を掲示しておく。



【音読の工夫とその効果】

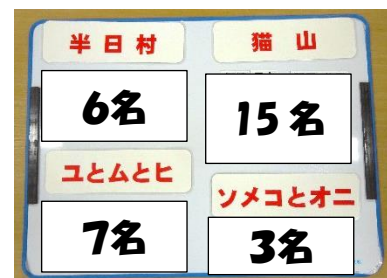
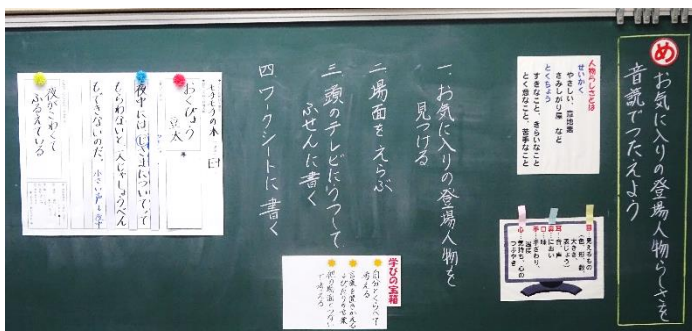
◆ 6時間目 ～ お気に入りの登場人物らしさが表れるように音読しよう① ～

子どもたちは、休み時間等の授業外の時間で斎藤隆介作品を読み進めてきた。本時は、その中から1冊を選び、お気に入りの登場人物らしさについて各自で捉えていく時間とした。

① 自分の選んだ物語を読み返し、お気に入りの登場人物らしさについて、自分の考えをまとめる

(想像を広げながら読む → 付箋を書く → ワークシートに考えを書く)

お気に入りの人物らしさは見つかったが想像を広げることにはまだ自信がない子どもは、絵本を参考にすることで、自分の力で課題解決に向かうことができた。



【名前磁石で選んだ物語を表出】

② 齋藤隆介作品を読む

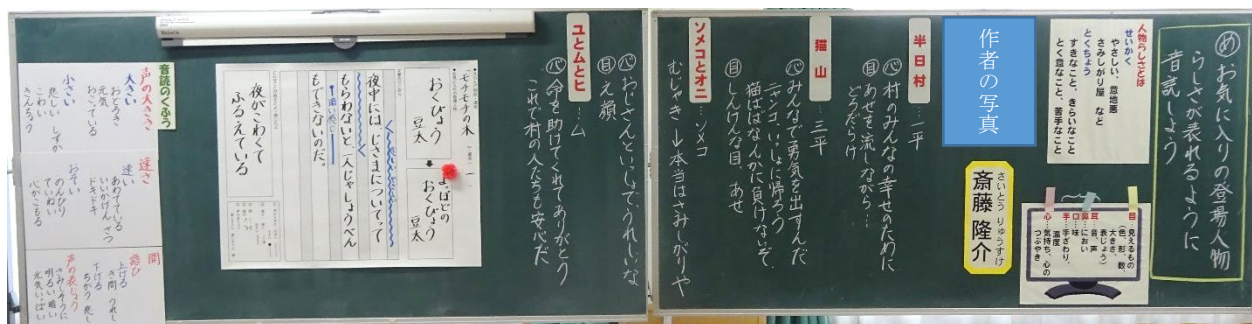
自分の選んだ物語を読み物資料で再度読み返す子どももいれば、選ばなかった物語を絵本で読み返してみたり、新たな物語の本を手にとったりする子どももあり、それぞれが自由に本に親しんだ。自分が選ばなかった本についても読み返す機会を与えておくことで、次時の授業で、自分の選ばなかった物語についての発言が出た場合に、友達の発言に対してより一層共感しやすくなるのではないかと考えた。

～ 子どもたちの振り返り ～

- ・前までは少し友達に聞いていたけど、今日は自分でできた。
- ・付箋を貼って考えると、新しいことが見えてきた。
- ・今度友達と交流して、いろんな音読の工夫を見つきたい。
- ・学びの宝箱を使って考えられてよかった。
- ・前よりとっても読むのが楽しくなったし、好きになった。



◆ 7時間目 ～ お気に入りの登場人物らしさが表れるように音読しよう② ～



○参考文献

- ・「音読・朗読」日本国語教育学会 監，2015年，東洋館出版社
- ・「音読・朗読入門」杉藤美代子，森山卓郎 著，2007年，岩波書店
- ・「朗読のススメ」永井一郎 著，2009年，新潮社
- ・「小学校新学習指導要領 ポイント総整理 国語」
吉田裕久・水戸部修治 編著，2017年，東洋館出版社
- ・「モチモチの木」齋藤隆介 著，1971年，岩崎書店
- ・「花さき山」齋藤隆介 著，1969年，岩崎書店
- ・「半日村」齋藤隆介 著，1980年，岩崎書店
- ・「ソメコとオニ」齋藤隆介 著，1987年，岩崎書店
- ・「猫山」齋藤隆介 著，1983年，岩崎書店
- ・「ユとムとヒ」齋藤隆介 著，1986年，岩崎書店